やまとの名品

# 源氏物語　竹河巻

▶【げんじものがたり　たけかわのまき】

伝西行筆　1冊
鎌倉初期写
縦18.3㎝　横15.8㎝

DATA

## ❖『源氏物語』最古写本の一つ

平安期の中頃、宮廷に仕える紫式部によって著された『源氏物語』は、五十四巻に及ぶ長編の作り物語である。

帝の子として生まれながら、源氏の姓を賜って臣下となった主人公光源氏と、個性豊かな女性たちとの恋愛を中心に、その生涯を描いたこの物語は、成立当初から現代に至るまで、長きに亘って人々の心をとらえてきた。

全五十四巻の内、「匂宮」「紅梅」「竹河」の三巻は、光源氏没後の主要な一族をそれぞれに描いたものである。中でも「竹河」巻は髭黒・玉鬘らの一族に焦点をあて、夫髭黒亡き後の妻玉鬘の奮闘ぶりが語られる、いわば外伝的な位置づけとなっている。

この巻の冒頭は、「光源氏のご一族からも離れた、後の髭黒太政大臣家に仕えていたおしゃべりな存命の古女房が、問わず語りに話したことは……」と始まる。語り手がかつて髭黒や玉鬘に仕えていた女房であることをまず明かしたもので、これは他巻には見られない特異な手法である。

こうした物語の叙述方法を始め、他の巻と同巻とでは作中人物の官職が合わない点があることや、人物の呼称が異なること、また同巻において使用される語彙に特殊な点があることなど、物語中において数々の矛盾や齟齬が生じている。これらの点から、「竹河」巻はあるいは紫式部が作者ではないとも言われてきた。

掲出本は、鎌倉初期の書写にかかり、西行筆と伝えられている。西行は当代随一の歌人藤原俊成と共に、『新古今和歌集』の新風形成に大きな影響を与えた人物である。現在残っている『源氏物語』写本の中には平安期書写のものはすでになく、鎌倉初期に書写の伝本が最古写本となっており、本書もその中の稀少な一本である。

（天理図書館　髙橋　諒）

＜天理図書館のお知らせ＞
Tel 0743-63-9200　URL https://www.tcl.gr.jp/
◇平日（午前９時～午後５時半）　土・日・祝（午前９時～午後４時半）
○２月の休館日：４日・11日・13日～22日・25日・29日
（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）
※最新の情報については公式HP、X（旧 Twitter）でご確認ください。